

3点①草いきれものともせず	測量士	潤子	
3点①晩学の時に迷走	罌粟坊主	才美	
2点②葉に残る雨の匂ひや青葡萄		友子	
2点①片頬に少しの痺れ	熱帯夜	守	
2点①愚直なるままに生きをり	ねじり花	直子	
2点	六月の雨音	黙読の呼吸	才美
2点	短夜や鶏冠	押しくる若冲絵	才美
2点	梅雨	湿り一枚の絵の艶のなし	ヤエ子
2点	岬まで標は五分	草いきれ	才美
2点	端居するヒップ	ホップと夕風と	秀夫
1点	空輸基地へり	旋回す雲の峰	明美
1点	ワサビ田に川の流れと	草いきれ	和幸
1点	とるに足らぬひと	日過ぎけり	蚊遣香 友子
1点	老猫に先をこされし	籐の椅子	邦子
1点	みんな髪白くなり	けり半夏生	守
1点	冷酒が胃の腑に	沁みる快気祝	眞壽
1点	新宿のコロナ禍の記事	水中花	直子
1点	節くれ立つ指に	来し方涼しかり	才美
1点	空向いて咲く芥の中の	花南瓜	ヤエ子
1点	コロナ伴ひ米軍基地の	サングラス	明美
1点	一舟の漕を	眼下に夏料理	才美
1点	せがまれて我も	楽しむひやぼん玉	邦子
1点	幼なき頃の記憶を	辿る水羊羹	眞壽
1点	安曇野の風は	ながれる草いきれ	和幸
1点	草いきれ	子供の遊具忘れて	眞壽
1点	蘭鉢やベルト	緩める昼餉あと	秀夫
1点	空蝉や魂ころんと	星になる	才美
1点	草いきれ	繪見えぬコロナの禍	邦子
1点	梅雨空へ	吸ひこまれゆく骨の音	守

梅雨の街	ウイルスもはや無尽蔵	明美
秘め事	のさてさて楽し	凌霄花 才美
藍浴衣	鏡の中はまるで母	友子
コロナ禍	の多様な日々や鴉鳴く	ヤエ子
緩き日	や夫と眺むる揚羽蝶	潤子
月見草	寂しき夜の友となり	邦子
枝落とし	風がとおるよ	草いきれ 和幸
はるかなる	夢の架け橋	夏の河 守
無造作に	被つて逢いに	夏帽子 直子
長梅雨	や貸す傘もなく	心細 邦子
雨上る	初蝉に耳そばだてて	友子
焼茄子	や八丁味噌の香濃し	ヤエ子
山の風	私を包む	草いきれ 和幸
待合せ	笑みて手を振る	夏帽子 潤子
蔓延る	な上司がくれた	月見草 眞壽
夏見舞	陶器のごとき	野菜の絵 秀夫
小魚で	骨を養ふ	濃紫陽花 直子
壁紙の色	褪せてゐし	梅雨の茶房 明美
重たげに	飛ぶ蚊の腹や	我が生血 潤子
草いきれ	雨上がりかな	湯気がたつ 和幸
緑野の	二羽の鴉や	梅雨晴るる ヤエ子
草いきれ	山羊のチーズに	舌つづみ ヤエ子
まぶし	記憶	学校林の草を刈る ヤエ子
網持ち	て駆けた	遠き日草いきれ 潤子
軽井沢	木々の葉擦れ	や草いきれ 明美
茗荷の子	両手にあふれ	あな嬉し ヤエ子
寺巡り	手縫ひ	マスクに夏帽子 友子
蛇の衣	サリサリ吹かれ	富士樹海 才美

(不在投句 古野明美、杉本和幸、弘友秀夫、
京林眞壽、向田潤子)

※

床上の泥を掃き	たり草いきれ	秀夫
コロナ禍	や恋しい人と	会へぬ夏 眞壽
裏山の木耳	一品	美味なりし ヤエ子
怪鬼の子	や水上	踊りて遊びをり ヤエ子
夕虹	やあまた	餅餅を世を逃げず 才美
輝きて	勝手に	出づる草いきれ 直子

【事務局からお知らせ】